

2022年度 日本工学院専門学校											
A I システム科											
インターンシップ 3											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	150	単位	5
担当教員	岩堀 信一			実務経験	有	職種	システムエンジニア／プロジェクトマネージャ				
担当教員紹介											
担当教員は、主に金融分野・公共分野におけるシステム開発にシステムエンジニア・プロジェクトマネージャとして従事。提案、要件定義、開発、テスト、運用のシステムライフサイクル全般に渡る実務経験有り。米国PMI認定PMP、AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイト、日本ディープラーニング協会G検定等の資格を有する。											
授業概要											
インターンシップとは「就労体験」のことである。長期インターンシップの期間は3週間～4週間が多い。学校の授業で学習した内容を活かす場でもあり、実践的なカリキュラムが各企業で実施される。実習は、受入先企業、あるいはそのユーザ先企業の社内となっている。最終的な評価については各企業の担当者の方に依頼する。											
到達目標											
学生が在学期間中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行い、実践的な体験と動機づけにより将来の企業人を育成することを到達目標とする。具体的には、企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解すること。企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解すること。学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを確認し、今後の学習への動機づけをすることを目標とする。今後の学生生活で学んだことが活かせるようにインターンシップ前に各自が目標を立ててから参加してほしい。											
授業方法											
インターンシップとは、学生が在学期間中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを指す。本カレッジのインターンシップは、産業界の協力を得て実践的な体験と動機づけにより将来の企業人を育成することを目的とする。インターンシップでは、企業活動の一端に触れることにより、次の事項に関してなんらかの学習効果を期待する。1つ目に 企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解すること。2つ目に企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解すること。3つ目に学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを確認し、今後の学習への動機づけをすることである。											
成績評価方法											
成果発表 50% 実習期間内に行われる発表方法、内容について評価する (口頭・実技) 平常点 50% 積極的な参加度、勤務態度によって評価する											
履修上の注意											
ンターンシップ開始前に担当教員と顔合わせに行く。また、インターンシップ活動賠償責任保険（総合賠償責任保険）に事前に参加すること。勤務時は受入先から特に指定がない場合は原則、スーツを着用する。期間中に電車遅延や体調不良で遅刻・欠勤する場合は必ず電話連絡すること。無断欠勤や勤務時の態度が悪い場合は、インターンシップを中断する可能性があるので、やむ得ない事情がある場合は、受入先企業、担任に速やかに連絡する。その他、社会人として必須のマナーを守ってインターンシップに参加すること。											
教科書教材											
資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	受入先企業を訪問して顔合わせを実施する。										
第2回	会社概要、就業規則及び情報セキュリティの説明、実習の内容などを理解する。										
第3回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性を身に付ける。										
第4回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性を身に付ける。										
第5回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性を身に付ける。										

2022年度 日本工学院専門学校	
A I システム科	
インターンシップ 3	
第6回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第7回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第8回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第9回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第10回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第11回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第12回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第13回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第14回	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける。
第15回	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する。